

2023年3月期 第1四半期

決算補足説明資料

2022年8月8日

三櫻工業株式会社

(証券コード：6584 東証プライム)

■ 2023年3月期 第1四半期 連結損益状況

■ 2023年3月期 第1四半期 セグメント別実績

■ 2023年3月期 第1四半期 営業外及び特別損益等

■ 2023年3月期 第1四半期 営業利益分析

■ 2023年3月期 第1四半期 連結財務状況：対前期末

■ 2023年3月期 第1四半期 連結キャッシュ・フローの状況

2023年3月期 第1四半期 連結損益状況



	2022年3月期 第1四半期 実績		2023年3月期 第1四半期 実績				2023年3月期 通期予想	
	金額 (百万円)	売上高比 (%)	金額 (百万円)	売上高比 (%)	対前年同期		金額 (百万円)	進捗率 (%)
					増減額 (百万円)	増減率 (%)		
売上高	29,494	100.0	31,054	100.0	+1,561	+ 5.3	128,000	24.3
営業利益	2,059	+ 7.0	133	+ 0.4	▲1,927	▲ 93.6	2,500	5.3
経常利益	2,181	+ 7.4	387	+ 1.2	▲1,794	▲ 82.2	2,400	16.1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,389	+ 4.7	▲476	▲ 1.5	▲1,865	-	1,000	-

● 2023年3月期 第1四半期 業績概要 (対前年同期比)

● 為替レート

- 売上高：世界各地において半導体不足、サプライチェーンの混乱による減産の影響を受ける一方で、円安の進行に伴う為替換算影響により、+1,561百万円増収。
- 営業利益：サプライチェーンの混乱に伴う運送費の高騰や原材料価格の高騰、インフレ及び日本・北米・欧州を中心に急激な生産変動に伴う人件費等の固定費負担の増加により、▲1,927百万円減益。
- 経常利益：営業利益の減少により▲1,794百万円減益。
- 純利益：経常利益の減少により▲1,865百万円減益。

損益換算レート (単位：円)	2022年3月期 第1四半期 平均レート	2023年3月期 第1四半期 平均レート	変動率
ドル	105.9	116.2	+10%
ユーロ	127.7	130.4	+2%
メキシコペソ	5.2	5.7	+9%
人民元	16.4	18.3	+12%
インドルピー	1.5	1.7	+13%
タイバーツ	3.5	3.5	+1%
ロシアルーブル	1.4	1.4	▲4%
ブラジルリアル	19.4	22.2	+15%

2023年3月期 第1四半期 セグメント別実績

	売上高			営業利益		
	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	対前年同期 増減	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	対前年同期 増減
	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)
日本	10,824	10,241	▲582	687	▲42	▲729
北南米	8,242	8,689	+447	255	▲916	▲1,170
欧州	5,899	5,616	▲282	384	▲2	▲386
中国	4,760	5,128	+369	262	303	+41
アジア	4,760	6,212	+1,452	554	700	+145
連結調整	▲4,991	▲4,832	+158	▲82	89	+172
合計	29,494	31,054	+1,561	2,059	133	▲1,927

● 2023年3月期 第1四半期の地域別業績のトピックス (対前年同期比)

- 日本【減収・営業赤字】 半導体不足、サプライチェーンの混乱による減産影響が継続したことにより減収。
利益面は減収に伴う付加価値の減少に加え、コロナ禍からの正常化に伴う将来に向けた活動の再開等により固定費が増加し営業損失。
- 北南米【増収・営業赤字】 北米における半導体不足に伴う客先の減産に伴い、円安による換算レートの影響を除いた実質売上は減収。
利益面は実質的な減収に加え物流網の混乱、輸送費の高騰、材料費を含むインフレ、生産変動に対応するための人件費負担の増加等により、前期下期からの営業赤字が継続し営業損失。
- 欧州【減収・営業赤字】 半導体供給不足、ロシア/ウクライナ問題によるサプライチェーンの混乱に伴い減収。
利益面も減収に伴う減益に加え、材料費、生産費、人件費高騰の価格転嫁が進まなかったことにより営業損失。
- 中国【増収・増益】 一部地域ではゼロコロナ政策に伴う生産停止等の影響により売上減となるも、円安による為替換算影響が補い増収。
利益面は継続したコスト削減効果も寄与し増益。
- アジア【増収・増益】 新型コロナウイルス感染症の拡大からの生産挽回による増産により増収。
増収影響に加え人件費等の固定費削減活動の継続効果により、営業利益は好調に推移。

2023年3月期 第1四半期 営業外及び特別損益等

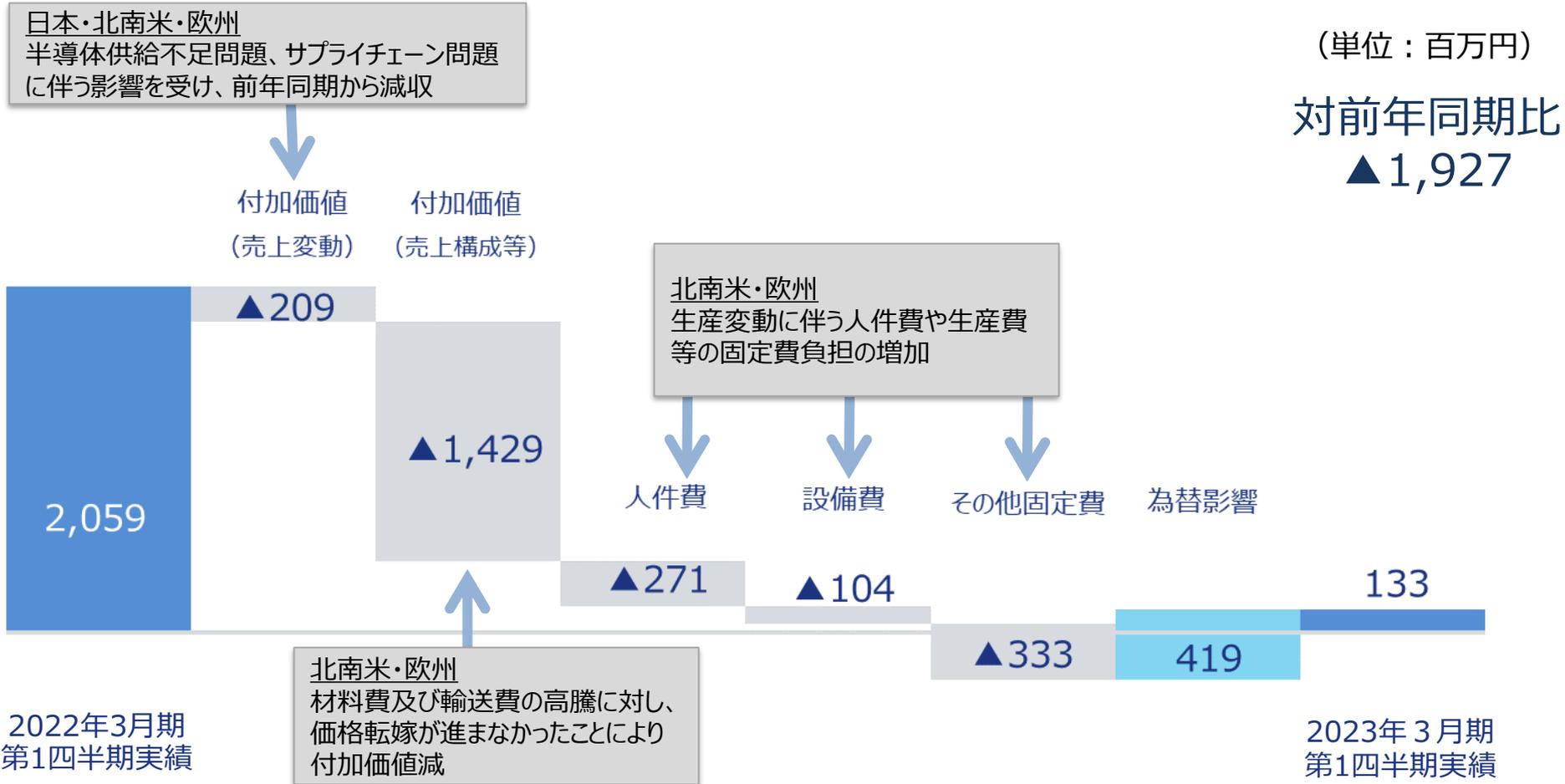


(増減額の符号は対利益符号)

連 結		2022年3月期 第1四半期 実績	2023年3月期 第1四半期 実績		主な増減要因 (金額は百万円)	
		金額 (百万円)	金額 (百万円)	対前年同期		
				増減額 (百万円)		増減率 (%)
営業利益		2,059	133	▲ 1,927	▲ 93.6	
営業外 損益	営業外収益	262	441	+ 178		為替差益の増加 +205
	営業外費用	140	186	▲ 46		支払利息の増加 ▲60
経常利益		2,181	387	▲ 1,794	▲ 82.2	
特別利益		56	15	▲ 41		有価証券売却益 ▲53
特別損失		4	200	▲ 196		損害賠償損失引当金繰入額 ▲189
税引前四半期純利益		2,233	203	▲ 2,031	▲ 90.9	
法人税等		644	490	+ 154		
非支配株主利益		201	189	+ 12		
親会社株主に帰属する 四半期純利益		1,389	▲476	▲ 1,865	-	

2023年3月期 第1四半期 営業利益分析

半導体供給及びサプライチェーンの問題による減収に加え、材料費や輸送費の高騰、生産変動に伴う人件費等の固定費負担の増加により、前年同期より減益。



注：付加価値（売上変動）＝連結全体の売上増（為替補正後）×前期付加価値率（為替補正後）

2023年3月期 第1四半期 連結財務状況：対前期末



連 結		2022年3月期末		2023年3月期 第1四半期			
		実績 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前期末増減額 (百万円)	主な増減要因 (百万円)
資 産	流動資産	53,485	55.5	57,562	57.6	+ 4,077	総資産： +3,560 増加 ① 営業債権 +1,855 ② 棚卸資産 +628 ③ 未収入金 +1,476 ④ 有形固定資産 +974 ⑤ その他投資有価証券 ▲1,590
	固定資産	42,952	44.5	42,434	42.4	▲ 517	
	資産合計	96,437	100.0	99,996	100.0	+ 3,560	
負 債	流動負債	36,863	38.2	41,590	41.6	+ 4,727	負債総額： +4,349 増加 ⑥ 営業債務 +991 ⑦ 短期借入金 +1,955 ⑧ 未払金 +479 ⑨ 賞与引当金 +654 ⑩ 繰延税金負債(固定) ▲470
	固定負債	17,891	18.6	17,513	17.5	▲ 378	
	負債合計	54,754	56.8	59,103	59.1	+ 4,349	
	純資産合計	41,682	43.2	40,893	40.9	▲ 789	
負債純資産合計		96,437	100.0	99,996	100.0	+ 3,560	純資産： ▲789 減少 ⑪ 利益剰余金 ▲931 ⑫ 有価証券評価差額金 ▲1,121 ⑬ 為替換算調整勘定 +1,415

(注1) D/E レシオ…前期末 0.74 → 当期末 0.80

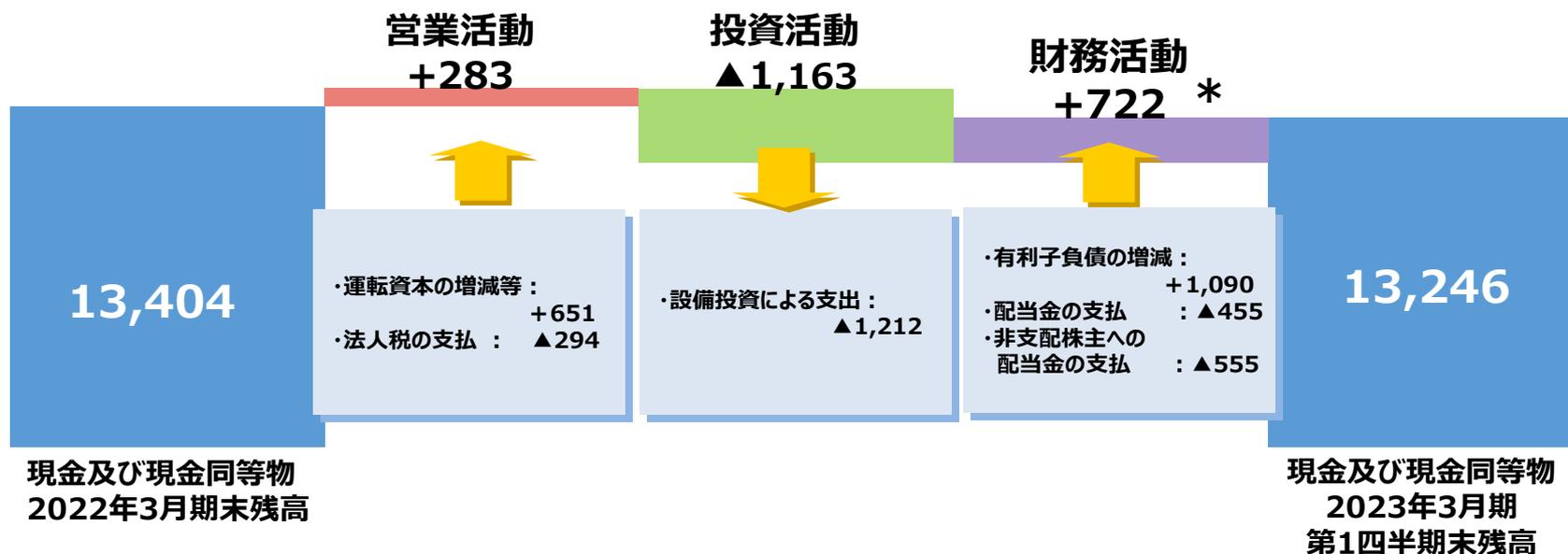
(注2) 自己資本比率…前期末 40.1 → 当期末 38.0

	前期末	当期末
①有利子負債	28,677	30,395
②自己資本	38,643	37,982
①/②	0.74	0.80

2023年3月期 第1四半期 連結キャッシュ・フローの状況

● 2023年3月期 第1四半期 連結キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)



* 現金及び現金同等物に係る換算差額 (+643百万円) を財務活動に含めております。

● 設備投資/減価償却の状況

(単位：百万円)

	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	
		実績	対前年同期
設備投資額	897	1,212	+315
減価償却費	1,218	1,346	+129

このプレゼンテーションで述べられている三櫻工業株式会社の業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものです。

マクロ経済や当社の関連する業界の動向、新たな技術の進展等によっては、大きく変化する可能性があります。

従いまして、実際の業績等が本プレゼンテーションと異なるリスクや不確実性がありますことをご了承下さい。また、大きな変更がある場合は、その都度発表していく所存です。